



ルールについて考える

集団には、秩序が必要です。みんなが安心して、安全に生活するために、不可欠なものです。そのため、集団生活にはルールがあります。スポーツにルールがあるのと同じです。ルールがあるからこそ、秩序が保たれ、安心・安全な集団生活ができるのです。ルールのない社会を想像してください。秩序は乱れ、好き勝手なことをする人が出てきます。物を奪い合い、暴力が生まれます。力による上下関係が生まれます。そうすると、秩序を乱す人を力で制圧することを望む人々が出てきます。力で保たれる秩序・・・それって・・・？

私たちは、「ルールを守る」ということを、幼い頃から教わってきました。「ルールは守るべきものだ」ということも、知っています。ルールは、ルールである以上、全員が従わなければなりません。それは、スポーツも社会も学校も同じです。正直に言いますが、私は車を運転していて、「どうして、こんなに見通しが良くてまっすぐな広い道の制限速度が、時速40kmなんだろう。」と思ったことがあります。もしかすると、保護者の皆さんの中にも、同じような経験がある方がいらっしゃるかもしれません。だからといって、その道を「自分は大丈夫」と思って時速50kmや60kmで走ることは認められません。仮に警察がいたら、スピード違反で捕まります。現に、このような過信でルールを守らない誰かのせいで、毎日のように交通事故が起きています。ルールに対する評価は、人によって違います。「気に入らない」というルールもあるかもしれません。しかし、それを理由に守らないことを許していたら、ルールはルールでなくなります。先の、スピード違反と同じです。

ただ、「どうして？」と思うことも、あるかもしれません。そのときは、みんなで知恵を出し合い、話し合い、納得いく形で、新しいルールを作ればいいんです。

以前、放送による集会の時に、ヘアピンのことについて話したのを覚えていますか？生徒手帳には、こう書かれています。

「髪をくくる必要のある生徒は、ヘアピンを使用してもよい。ただし、色は黒で、本数は4本までとし、前髪はとめないものとする。（平成9年度生徒決議）」

それまでの三豊中学校では、女子の髪は伸ばさないものとされていたため、ヘアピンの使用は不要でした。しかし、伸ばしてもよいことになったため、生徒からヘアピンの使用を認めてほしいという要望が出ました。そこで、当時、生徒指導を担当していた私は、生徒会担当の先生と相談して、ヘアピンのルールを、生徒が考えることを提案しました。学級会で話し合った内容を、規律委員会や代表委員会で検討・整理して原案を作り、再度学級会でそれが妥当かどうか、守れるかどうかを検討し、再び代表委員会で話し合っただけで最終案がまとめられました。それを、生徒会長と規律委員長が職員会に来て報告し、原案どおり認められたのが、先のルールです。ヘアピンのルールが必要かどうかという議論は別にして、確かに生徒によって、三豊中学校に新しいルールが生まれたのです。

繰り返しますが、ルールは、守らなければなりません。ただし、見直しが必要なものは、見直すべきだと思っています。今年の生徒総会や1学期末の保護者アンケートの中にも、検討すべき意見がありました。生徒の皆さんの考えも聞きながら、見直しをしていきたいと思っています。その間、見直されるまでは、今のルールを尊重して、皆さんの手で、三豊中学校を守ってください。それが、「自治」です。

<三中生のちょっとした話>

柔道の試合で、最後の礼の前に、乱れた柔道着を整えるように審判が選手に指示しているのを見たことがある人もいるでしょう。部活動でも、最後の集合の時には服装を整え、整った形で下校するよう指導しています。

先日、下校指導をしていて、5～6名の人に、シャツを入れるように声をかけました。よかったなあと思うのは、そのときの反応です。全員が「あっ、すみません。」「はい、分かりました。」などの言葉とともに、すぐその場で入れてくれました。中には、友だちが言われているのを横で聞いて、自分の服装を確かめる人もいました。その素直さ、いつまでも持ち続けてください。その上で、次からは、最初から入れておくと、なお素晴らしいですね。